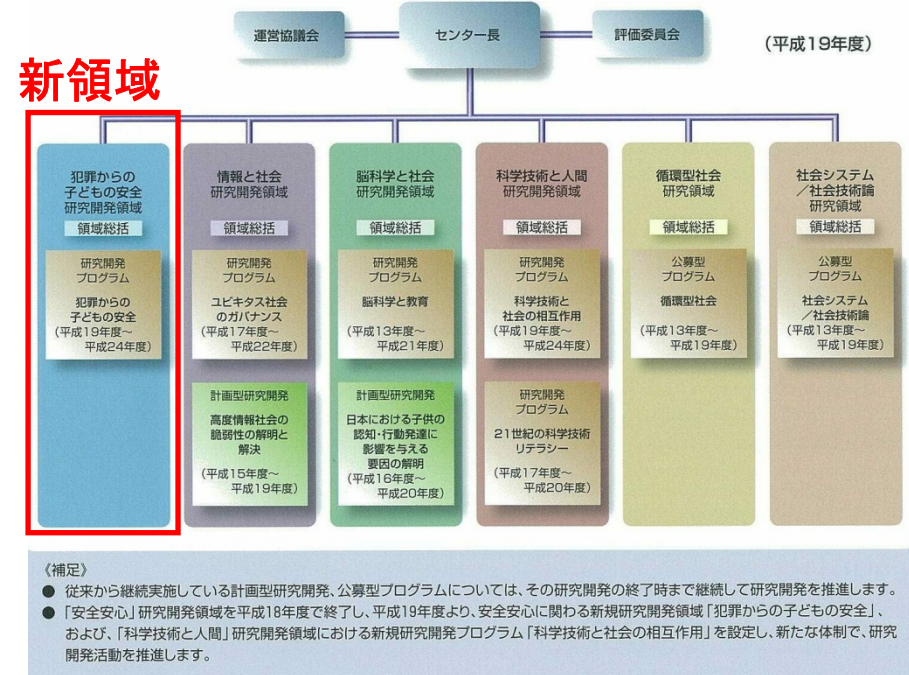
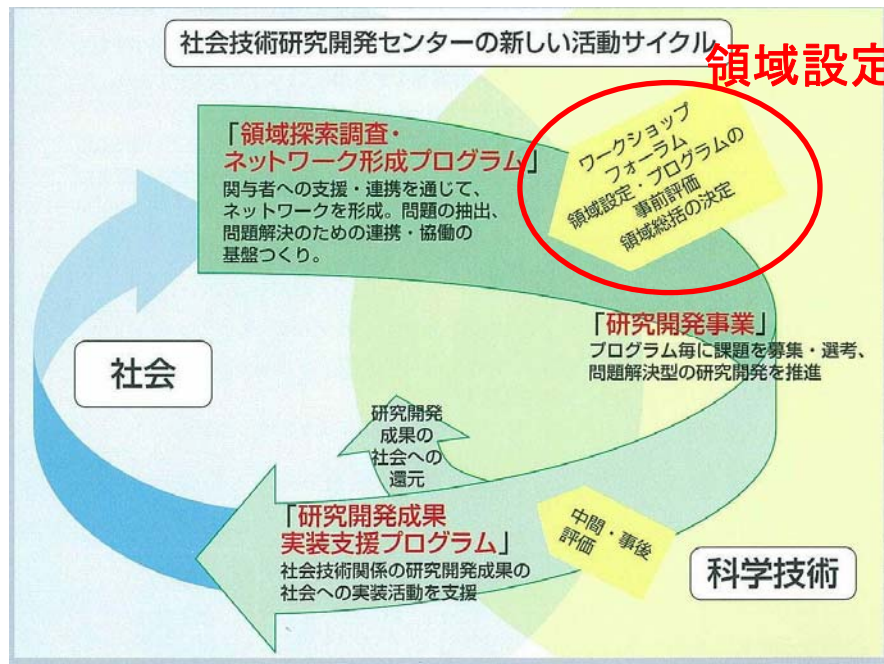


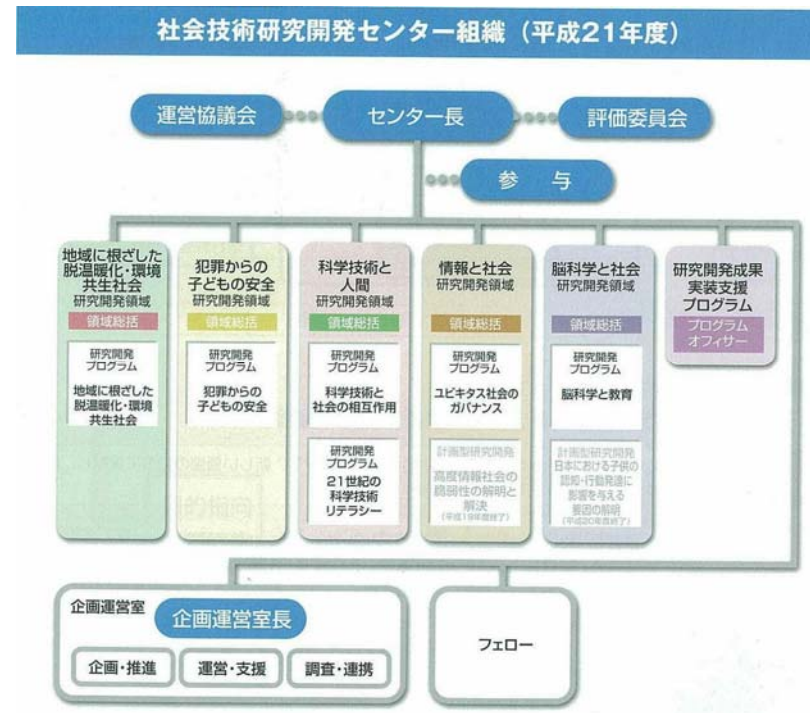
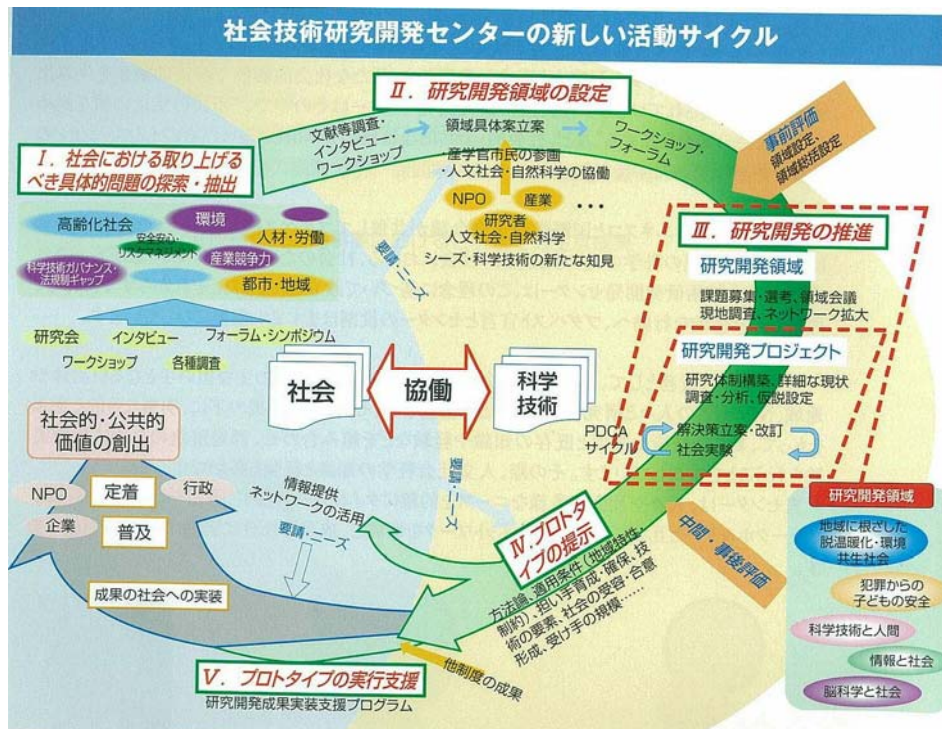
社会技術研究開発センター（平成19年度）



テーマ設定等計画段階の充実 → 研究開発領域設定プロセス策定・実行

本発表の内容は個人の見解であり組織を代表するものではありません

社会技術研究開発センター（平成21年度）



社会への実装の整理

本発表の内容は個人の見解であり組織を代表するものではありません

システム時代の研究開発評価

- ミッションプログラム
 - 中間評価委員会をad-hocに結成
 - 平成15年度に評価実施
- 公募型プログラム
 - 研究総括、領域アドバイザーによる課題選考
 - 研究総括、領域アドバイザーによる事後評価
 - 中間評価は実施しない(研究期間3年)

センターにおける研究開発評価

- センター評価委員会が実施(中間・事後評価)
 - 領域毎に設置する分科会
 - ピアレビュー(当該領域に関わる専門家による専門的観点からの評価)
 - 「親」委員会
 - (研究開発領域・プログラムの評価を含む)アカウンタビリティ評価(得られた研究開発の成果が投入された資源(資金、人)に対して十分見合ったものであるかという視点での妥当性、社会的意義・効果に関する評価)
- 事前評価は？
 - 研究開発プロジェクト(公募による研究課題)
 - 領域総括、領域アドバイザーによる選考
 - 研究開発領域(プログラム)
 - センター運営協議会による事前評価

センターにおける追跡評価

□ 目的

- 研究開発成果の発展状況、活用状況等を明らかにする(副次的効果を含む)【終了後一定期間を経過後(現状3年)】
- 事業及び事業の運営の改善等に役立てる

□ 対象

- 社会技術研究開発事業で実施された全研究課題(研究開発プロジェクト)(平成13年度～)(**領域・プログラムは対象外**)

□ 評価項目・基準(センターが評価委員会と調整の上決定)

- 研究開発成果の発展状況や活用状況(特に、目標とした社会問題の解決に対する貢献)
- 研究開発成果がもたらした科学技術的、社会的及び経済的な効果・効用及び波及効果(特に、社会技術研究開発の進展への貢献)
- その他

センターにおける追跡評価

□ 手続き

- 研究開発成果の発展状況や活用状況、参加研究者の活動状況について、**研究開発プロジェクトの追跡調査**を実施
- 追跡調査結果等を基に評価を実施
- 評価は、**研究開発領域としての評価の意義も有することを踏まえて**行う。

追跡調査の方法

□ データによる調査

- 一般に公開されている成果発表データ(論文、書籍、報道発表、公開イベント等)収集

□ 聞き取りによる調査

- 当時の研究総括ならびに研究代表者(必要に応じて主要な研究協力者)
- 成果の発展、活用がなされている場合、主要な関与者(成果の利用者等)

□ 書面による調査

- 書面で十分な場合、書面の方が効率的な場合

追跡調査結果の一例



「循環型社会」研究領域
「環境経営・格付手法の活用」
(平成13年度～平成16年度)

目次

| | |
|---|----|
| 1. 調査概要 | 1 |
| 1.1. 調査目的 | 1 |
| 1.2. 調査方法 | 1 |
| 1.2.1. 基礎データの把握と確認 | 1 |
| 1.2.2. 研究開発課題現状調査票の基礎作成 | 1 |
| 1.2.3. 研究代表者への聞き取り調査の実施 | 2 |
| 1.2.4. 主要な共同研究者に対する調査 | 2 |
| 1.2.5. 社会の関与者への聞き取り調査 | 3 |
| 1.2.6. 追跡調査報告書の作成 | 4 |
| 2. 調査対象課題の概要 | 5 |
| 2.1. 研究の目的と背景 | 5 |
| 2.2. 研究の実施体制 | 5 |
| 2.3. 研究の内容 | 6 |
| 2.4. 研究成果の概要 | 7 |
| 2.4.1. 格付け技術と機関運営の研究 | 7 |
| 2.4.2. 格付理論の研究と格付の実施 | 7 |
| 2.4.3. 循環型社会の将来像の研究 | 9 |
| 3. プロジェクト終了以降の展開 | 10 |
| 3.1. 環境格付けの展開状況 | 10 |
| 3.1.1. 格付けの継続状況 | 10 |
| 3.1.2. 環境経営格付けからサステナブル経営格付けへ | 10 |
| 3.1.3. 格付けの現状 | 11 |
| 3.2. JEPiXの研究展開状況 | 11 |
| 3.2.1. 21世紀COEプログラムにおける企業とのベンチマークプロジェクト | 11 |
| 3.2.2. JEPiXの応用研究 | 12 |
| 4. 研究成果の効果・効用、波及効果 | 12 |
| 4.1. 受診企業の事例に見る啓蒙効果 | 12 |
| 4.1.1. 環境格付けへの取り組み経緯 | 13 |
| 4.1.2. 環境格付けに対する評価 | 14 |
| 4.1.3. 格付けの問題点と今後の期待 | 14 |
| 4.2. 環境負荷総量指標としてのJEPiXの活用 | 14 |
| 5. 課題と提言 | 15 |

追跡調査報告書目次
公開前情報

本発表の内容は個人の見解であり組織を
代表するものではありません

追跡調査結果の一例

公開前情報につき、配付資料には図を含めません。

本発表の内容は個人の見解であり組織を
代表するものではありません

追跡評価の現状と課題

□ 現状

- 追跡調査の結果を基に、センター評価委員会が実施予定
- 具体的な進め方は現在検討中

□ 課題

- 研究実施時の考え方と現在のセンターの考え方の相違
- センター発足以前の課題の追跡評価をセンター評価委員会が行うことについての議論

追跡評価の課題

- 広範な領域(プログラム・課題)
 - 循環型社会、社会技術／社会システム論、脳科学と教育
 - ユビキタス社会のガバナンス、21世紀の科学技術リテラシー
 - 科学技術と社会の相互作用
 - 犯罪からの子どもの安全
 - 地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会
 - 高齢社会(検討中)
 - ■ ■



ご静聴ありがとうございました

本発表の内容は個人の見解であり組織を
代表するものではありません